

CASBEE-建築(新築)2016年版 (仮称)柏の葉キャンパス新技術センター計画 C1棟 新築工事		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)						
スコアシート 竣工段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目								
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル		事務室NC-40		4.2	0.15	-	-	4.2
1.2 遮音		開口部遮音性能:T-2 Dr=50		4.0	0.40	3.0	-	
1 開口部遮音性能				5.0	0.40	-	-	
2 界壁遮音性能				5.0	0.60	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				3.7	0.35	-	-	3.7
2.1 室温制御				3.8	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		ペリメータインテリア ゾーニング、4管式AHU、冷暖同時		5.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性				4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		床吹出空調		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				4.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				4.3	0.25	-	-	4.3
3.1 昼光利用				3.4	0.30	-	-	
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		ハイサイドライトを採用		4.0	0.40	3.0	-	
3 昼光利用設備				5.0	0.30	-	-	
3.2 グレア対策		自動制御ブラインド		5.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		500lx		5.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		明るさセンサー		4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御				5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策		F☆☆☆☆の建築材料を使用(70%)		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質				4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		中央管理方式の空気調和設備、30m ³ /h人		3.3	0.30	-	-	
1 換気量				4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		中央監視での常時監視、管理マニュアルの整備		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		全館禁煙		5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	4.0
1 機能性				3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-	
3 パリアフリー計画				1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		天井高:2.9m以上		5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		リフレッシュスペースが執務スペースの6.3%、自動販売機の設置		5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		ベースによる内装の事前検証を実施している		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画				5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		OAフロア、壁掛け便器の採用など		4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		清掃用具庫に洗い場を設置し排水設備への経路を確保など		5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				4.5	0.30	-	-	4.5
2.1 耐震・免震・制震・制振		最大層間変形角1/382(建築基準法に定められた50%増の耐震性) 免震装置の採用		5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-	
1 転体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:タイルカーペット(20年)		5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房排気の全てに、SUSやガルバニウムダクトを採用		5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		空調配管・配管用炭素鋼鋼管(白)…D		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				4.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		換気設備の系統区分、吊配管、災害時の優先運転・電源供給		5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		過半以上にグリーン購入法適合品・同等の節水器具を採用など		4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電機、UPSの設置など		5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS以上		5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		光・メタルケーブル引込み、UHF・BS・CS、ネットワーク機器のUPS化		5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	階高:3.9m 壁長さ比率:0.15	3.9 4.6 5.0 4.0 4.0 3.4 3.0 3.0 5.0 5.0 3.0 3.0	0.30 0.30 0.60 0.40 0.30 0.40 0.20 0.20 0.10 0.10 0.20 0.20	- - 3.0 - 3.0 - - - - - - -	- - - - - - - - - - - -	3.9
	3.2 荷重のゆとり	床積載荷重(4900N/m ²)、大梁・柱・地震用:基準法に対する割増なし					
	3.3 設備の更新性	OAフロア・ケーブルラックの採用 OAフロア・ケーブルラックの採用					
	1 空調配管の更新性						
	2 給排水管の更新性						
	3 電気配線の更新性						
	4 通信配線の更新性						
	5 設備機器の更新性						
	6 パックアップスペースの確保						
	Q3 室外環境(敷地内)						
1 生物環境の保全と創出		敷地周辺の生物環境の立地特性の把握・計画方針の設定	4.0	0.30	-	-	3.7
2 まちなみ・景観への配慮		周辺へのまちなみ調和に配慮した景観計画	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							
LR1 エネルギー							
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.85	4.5	0.20	-	-	4.5
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライトを採用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.81	2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル							
1 水資源保護							
1.1 節水		節水コマ、自動水栓に加えて省水型機器を過半に採用	4.0	0.40	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減							
2.1 材料使用量の削減							
キャブリングパイル工法、デッキ合成スラブ、機械式継手の採用など			5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		鉄骨梁等に電炉鋼を使用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		屋内用品(床材)、外装材、路盤材	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避							
3.1 有害物質を含まない材料の使用							
ケミクリートE(有害物質を含まない材料)の採用			4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1 消火剤		窒素消火	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		押出法ポリスチレンフォーム(ODP=0、DWP=3)	4.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境							
1 地球温暖化への配慮							
BEI=0.70			3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮							
2.1 大気汚染防止		NOx排出濃度がガイドラインの90%以下	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		必要貯留量より多く貯留できる計画としている	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		適切な量の駐輪場や駐車場の確保など	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		ゴミのストックスペースの確保、ゴミ分別容器の設置など	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮							
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							
1 騒音			3.0	0.40	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	